

令和元年度 第6回いわき市社会福祉審議会児童福祉専門分科会
(子ども・子育て会議) 議事録

1 開催日時

令和2年2月10日(月) 午後2時00分から午後4時30分

2 開催場所

市文化センター1階 大講義室

3 出席者

(1) 児童福祉専門分科会委員(15名のうち10名出席) ※五十音順

井田夏子委員、伊藤順朗委員、小川美代子委員、鎌田真理子委員、草野祐香利委員、
強口暢子委員(会長)、志賀達生委員、菅波香織委員、杉村理一郎委員、宮内隆光委員

(2) 事務局(16名)

こどもみらい部: 高萩部長、中塚次長兼総合調整担当

こどもみらい課: 小島課長、松崎統括主幹兼課長補佐、草野主幹兼課長補佐、草野主
任主査兼企画係長、川嶋主査、植木主事

こども支援課: 鈴木参事兼課長、中村主幹兼課長補佐

こども家庭課: 武山課長兼子育てサポートセンター所長、松川主幹兼課長補佐
館子育てサポートセンター次長

学校教育課: 玉澤課長

4 協議事項

(1) 第二次いわき市子ども・子育て支援事業計画について(資料1)

5 報告事項

(1) いわき市子どもの生活実態調査結果の概要について(資料2)

(2) 待機児童数(令和元年10月1日現在)について(資料3)

(3) 子ども家庭総合支援拠点について(資料4)

6 その他

7 会議の形式等について

- ・ 委員半数以上の出席があり、会議が成立していることを報告した。
- ・ 会議を公開することを確認した。
- ・ 議事録は、議事に直接関係する発言又は説明内容のみを記録し、委員名を記録しない「要点筆記方式」で作成することとした。
- ・ 議事録署名人は、菅波香織委員と志賀達生委員の2名を選出した。
- ・ 傍聴人 2名: 福島民報社いわき支社報道部、福島民友新聞社いわき支社報道部

8 内 容
 ～協議事項～

(1) 第二次いわき市子ども・子育て支援事業計画について

発言者	発言内容
会長	協議事項の「(1)第二次いわき市子ども・子育て支援事業計画」について、事務局からの説明を求める。
事務局	資料1に基づき説明（こどもみらい課長）
A委員	<p>P. 2の奨学金について、ほとんどの大学では、成績優良者は授業料免除等のスカラーシップ制度があるなど、以前よりは制度が充実している印象がある。</p> <p>P. 6のNo.7のSST（ソーシャルスキルトレーニング）について、医療創生大学心理学部の山田教授が、発達障害の方たちのSSTを専門としており、地元にも優秀な人材がいる。</p> <p>P. 1の自治会の外灯について、自治会が解散した地区もあるので、「自治会等の御協力」という部分は、加筆することを検討願いたい。</p>
事務局	担当課と相談する。
B委員	<p>P. 3の緊急サポート事業について、社会的資源がなく、病児や災害の時、母子家庭や子どもが多い家庭だと、緊急サポートの利用料が大きな負担となる。一方で、病児病後児保育は無料だが、定員が少なく預けられないという話を聞く。低所得世帯に対しては、何回か使えるクーポン配布などが必要ではないか。</p> <p>また、放課後児童クラブでは、定員を超過し、抽選となったが、公平性に疑問がある。定員を超えた場合の選定基準はないのか。</p> <p>P. 6のNo.8の給食費の無料について、「給食費の無償化は困難」との回答だが、給食を無償化している自治体もある。困難ならば丁寧な説明が必要だし、それを乗り越える手立てを考えられないか。</p>
事務局	放課後児童クラブの件については、事情を把握している。選定の方法は市内で一律であるため、改めて各団体に選定基準を示していきたい。
事務局	<p>緊急サポート事業については、相互扶助の観点で実施しており、会員確保が課題。委託先と意見交換しながら、充実に向けて取り組みたい。</p> <p>病児・病後児保育については、昨年度から新たに小名浜の洋向台クリ</p>

	<p>ニックが加わり、4施設となっている。施設の拡大等については今後検討していきたい。</p>
事務局	<p>給食費の無償化の部分への加筆の可否については、担当課に確認する。</p>
C委員	<p>具体的な予算が示されれば、より深まるのではないか。</p>
事務局	<p>事業の予算については、次回以降にお示しする。</p>
D委員	<p>市医療センターでも病後児保育を開始する予定である。</p>
A委員	<p>障がい児相談支援事業所が次々と撤退している。なぜ市は撤退を許可してしまうのか。介護保険に比べ、単価が安いことが原因と思われるが、仙台市は赤字になる障がい児のサービス提供事業所に補助金を出しており、そのような取組みが必要なのでは。</p>
会長	<p>行政に必要性を訴えることも必要。事業者の促進については行政の後押しも必要と思う。</p>
E委員	<p>医療的ケア児について、訪問看護でも小児は十分ではなく、親の負担が大きい。資源が少ないのと、うまくコーディネートできていないと思う。</p> <p>県としても医療的ケア児のコーディネートを充実させようとしているところ。それを受けて市としてどうするか。</p> <p>P. 3の緊急サポート事業については、ファミリー・サポート・センターがもっと機能していればよいのでは。</p> <p>本来、ファミリー・サポート・センターで良い案件でも、緊急サポートセンターを利用してしまいう事例がある。もっとファミリー・サポート・センターを活用できれば、学童に入れない子どもにも対応できるのではないか。</p> <p>産後ケアの委託も受けているが、上の子は助産院では見られないため、利用を見合わせた事例もあった。保育と母子ケアの連携ができないか。</p> <p>P. 6のNo. 7の児童虐待については、“妊娠期から”という視点も入れられればと思う。</p>

	<p>P. 7のNo.9の健康増進については、妊娠中の胎児環境が生活習慣にも影響するので、「乳幼児期から高齢期まで」という表現を、「妊娠期・胎児期から」とできればいいと思う。</p>
事務局	<p>児童虐待については、パブリックコメントの意見が“講座”についてだったのでその回答になっている。</p> <p>別途実施しているものについては、計画にもお示ししている。</p>
事務局	<p>「妊娠期から」という考えは、担当課に確認する。</p>
E委員	<p>P. 8のNo.13の情報提供について、資源があるのはわからなかったという人が多く、それぞれのニーズにあった資源に結びついていないと思う。</p> <p>何かあればおやCoCoへという体制は整っていると思うので、媒体を活用して改善できないか。</p>
D委員	<p>一般の市民は欲しい時に情報を調べているが、本当に大変な人はそういうこともできない。それを個人の責任ということで放置していいのか。</p>
事務局	<p>子育て支援については、まずはコンシェルジュに相談してもらう、そこを知ってもらうことが必要だと思う。</p> <p>市公式ホームページなども改善しながら、できる限り市民が情報にたどり着けるようにしていきたい。</p>
A委員	<p>今あるサービスをきちんと繋げられれば機能するのでは。</p> <p>P. 8のNo.13については、総合相談窓口で「ワンストップ窓口」ということをきちんと明記すべき。</p>
F委員	<p>幼稚園、小学校の保護者だと悩んだ時の相談先はほとんどが先生。</p> <p>幼稚園などにチラシが置いてあって、そのような総合相談窓口に繋がるとわかれば助かる。保護者のほとんどは相談窓口を知らない。</p>
会長	<p>具体的に子ども・子育てに関することなら各地区保健福祉センターにということがわかってもらえるように、市民にお伝えできれば。せめて子どもたちがいる所にはチラシなど置いてほしい。</p>
会長	<p>本日出た意見を事務局で検討の上、パブリックコメントへの回答として公表してよいか。</p>

委員	異議なし ⇒「協議事項(1)」終了
----	--------------------------

～報告事項～

(1) いわき市子どもの生活実態調査結果の概要について

発言者	発言内容
会長	報告事項の「(1)いわき市子どもの生活実態調査結果の概要」について、事務局からの説明を求める。
事務局	資料2に基づき説明（こどもみらい課長）
D委員	対象を小学5年生と中学2年生とするのは一般的なのか。 回収されなかった残りの25%はどのような家庭か。
B委員	学校を通すと回収率が高いイメージだったが、逆に低い。 具体的にはどのように回収したのか。
事務局	対象の選定について、中学生になって落ち着いた時期として、中学2年生、小学生は、ある程度回答能力がある学年で5年生とした。 配布及び回収については、各小・中学校の各学年、クラス全員に児童を通じて配布し、各家庭において記入後、学校を通して回収している。 回収できなかった25%の家庭状況については確認できない。 今回の調査の目的はあくまでも全体の傾向の把握。提出の有無を含めた個人情報特定されるようにすると、回収率が低くなる可能性がある。
A委員	回収にあたって先生方が催促したということはあるのか。 保護者があまり関わる時間がない世帯の回収ができていないのでは。 回収の時点でフィルターがかかっているのではないのか。
B委員	漢字が読めない保護者さんもいて、色々な提出書類が提出されないことがあるが、ルビはふったのか。 外国の保護者さんや単身世帯等、多様性に心がけて行ったとは思いますが、私たちが思っている以上に多様化が進んでいるのでは。
事務局	回収できなかった25%の方がどのような家庭かについては把握していない。今回定義付けしてやってみた所、一定の傾向はつかめたと思う。
C委員	アンケートをどのように活用していくのかということが大切。 また、比較対象がないと審議は難しい。
会長	学校では生活困難世帯について把握しているのか。

事務局	学校では準要保護まではわかるが、家庭の経済状況まではわからない。
会長	家庭訪問はしていると思うがどうか。
事務局	見えてくるものはあるが、教員の方で色分けするわけにはいかない。
B委員	生活困難層の定義は市独自のものか、それとも何かを参考にしたのか。
事務局	他市を参考にし、定義づけしている。
D委員	定義を同じにすれば他市と比較できるのでは。
事務局	アンケートの設問や選択肢などが、自治体ごと様々なので、単純比較はできないが、部分的な比較は可能かと思う。
会長	東北の中核市あたりとの比較を示せないか。
事務局	秋田、盛岡等、アンケートを実施している自治体とは比較できる部分はあると思う。
会長	項目で合致するものをもう一度出していただき、今後どうするか、意見交換できる形で示してほしい。
B委員	P. 27の家計の状況について、養育費の額があまりにも低すぎるので背景状況を教えていただきたい。
事務局	分母が全世帯を対象にしているので金額が低くなっているのではないかとと思われる。
会長	他に何かあれば事務局にあげていただければ。
A委員	厚労省の貧困調査でも、ひとり親の55%が貧困という結果で、ある程度市の調査と合致しているなので、実態が浮き彫りになってきたと思う。
	⇒「報告事項(1)」終了

(2) 待機児童数（令和元年10月1日現在）について

発言者	発言内容
会長	報告事項の「(2) 待機児童数（令和元年10月1日現在）」について、事務局からの説明を求める。
事務局	資料3に基づき説明（こども支援課長）
A委員	障がい児の統合保育については待機児童が多いと聞くが、どのように換算されているのか。
事務局	待機児童が5名。加配保育士がおらず、受け入れられない状況。
A委員	療育関係の施設では障がい児で保育園に入れないと困っている。改善はされるのか。
事務局	加配のための予算は確保している。保育士不足なので、人材確保に向けて改善できるよう努力。
会長	加配は市独自基準があったと思うが。
事務局	<p>いわき市では障がい児に対しての保育士の配置について、市独自に基準を定めていて、他市と比べて手厚くなっている。</p> <p>介護度重度の障がい児に対しては1人に対して1人保育士を付ける。中度の障がい児に対しては2人に対して1人。軽度の障がい児に対しては3人に対して1人。</p> <p>人材確保が大きな課題。国の方でも処遇改善加算や、資格無しでもできる職員を雇用する際には経費の一部を補助するなど処遇改善してきている。市でもこれを活用しながら人材確保に向けて務めていきたい。</p>
B委員	放課後児童クラブの待機児童数はどうなっているか。
事務局	<p>データはあるため、次回お示しする。</p> <p>⇒「報告事項(2)」終了</p>

(3) 子ども家庭総合支援拠点について

発言者	発言内容
会長	報告事項の「(3) 子ども家庭総合支援拠点」について、事務局からの説明を求める。
事務局	資料4に基づき説明（こども家庭課長）
D委員	<p>発達障害について、国の政策は、名前だけ変わっていることが多い。実質的にはどのようになっているのか。</p> <p>心理の方や支援員などの専門職の方が増えるのを期待している。</p> <p>機能しているのはわかっているが、専門職の方々が集まって話せる場所ができればいいのでは。</p>
事務局	<p>2頁目の配置基準で検討しているのが6名の純増だが、実際は4名の予定。</p> <p>現在地区保健福祉センターに配置されている家庭相談員が、この3職種を兼務できることとなっているため、それを除き、子ども家庭支援員が2名、虐待対応専門員が1名、心理担当支援員が1名、合計4名が純増。会計年度任用職員として改めて確保したい。</p>
A委員	正規雇用なのか。アウトソーシングをされるのか。
事務局	各市町村で拠点の取組みの仕方は色々あるが、いわき市の場合は今後のあり方を検討するという見据えて、現段階では会計年度任用職員、今の制度でいうと嘱託職員で確保するという方法を選択した。
A委員	児童相談所と市の拠点の棲み分けはハイリスクか。
事務局	拠点ですべて行うのではなく、現行の体制は維持したままを基本として対応する考え。
A委員	スクールソーシャルワーカーは、児童相談所では命に関わる危険な場合のみ対応すると言われていて、セクシャルハラスメント、性的虐待それ以外は放置という形。市での拠点が早くできることを大変期待している。
事務局	マスコミの影響で、児童相談所はリスクが高い所だけというイメージがあるが、児童相談所でも軽い相談も受けており、程度の低いものについては市に繋いでもらっている。

	<p>拠点も虐待のイメージが付きすぎると、市に相談しにくくなるので、子育て中の方が安心して相談できる窓口ということをPRしていきたい。</p> <p>⇒「報告事項(3)」終了</p>
--	---

(4) その他

発言者	発言内容
C委員	<p>先月の水石山での母子四人殺害事件を踏まえて、分科会として検証するのか。</p> <p>被害者である子どもたちは中学生だったが、以前通っていた小学校への対応はどのようになっているのか。一緒に遊んだり、授業を受けたりした子どもたちもいる。いわき市の事件として考えて、子どもが頼れるような場所が提供されると良い。</p> <p>先生からの言葉があると、子どもたちの心のケアになる。</p>
事務局	<p>小名浜第一中学校には、カウンセラーを市の総合教育センターからも派遣した。これからも継続的にケアしていきたい。</p> <p>被害者の方が卒業した小学校でもケアできるようにしたい。</p> <p>⇒「報告事項(4)」終了</p>

以上の議事録が正確であることを証するため、次に署名押印する。

令和 年 月 日

議事録署名人

Ⓜ